

## 1. 教育の責任

建築学を専門とし、とくに建築史・意匠分野を主軸としています。建築学は、インテリアから建築、都市、そして地球規模の多様なスケールで、少し先の未来を見据え、私たちにとってより良い住みややすい空間を現実に形づくることを使命としています。未来志向でより良い空間の実現を目指すには、現代へと連なる近代を問い直すことが重要であるとの考えから、近代の建築の歴史と理論を中心に教育と研究を実践しています。

教育と研究を両輪として、これからの時代を切り開く建築の設計理念や計画手法の探求と実践を進め、より良く、より住みやすいまちを未来につなぐ人材の輩出に力を尽くし、地域社会そして国際社会への貢献を目指しています。

[主な担当科目（2025年度）]

建築・インテリア総論、住まいの歴史、東洋建築史・西洋建築史、CAD 演習Ⅰ、設計製図演習Ⅱ、アート体験、キャリアデザインⅢ・Ⅳ、ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業研究

## 2. 教育の理念

専門領域の枠に閉じず、教育研究の実践で得た知見を、講義や演習、ゼミナールやクロスオーバーなど多様な学修活動へ最大限に開くことを重視します。これにより、創造活動と文化創生において社会に貢献できる価値ある人材、そして変化の時代をしなやかに生き抜くクリエイティブな人材の育成を目指します。

## 3. 教育の方法

[教育の目的と目標]

- 1) 建築史関連：過去の出来事を単に覚えるのではなく、歴史から現在地を理解し、未来への指針を考える契機となる学びを目指します。図版の活用、時代間の比較、社会背景や芸術文化との関係からの説明に加え、調査学習や可能な限り学外見学を取り入れ、建築や周辺の事象を見る目を養います。
- 2) 設計演習・CAD 演習等：基礎的な製図から応用的な設計まで段階的に進む教材や教育方法を整備します。カリキュラムに沿い、各講義・演習・卒業研究と連携しながら技術と表現力の修得を図ります。
- 3) ゼミナール・卒業研究：現代社会の課題を設定し、建築による解決策の仮設立案から空間デザインの提案まで、歴史を踏まえつつ未来を見据えて探求することを目指します。文献等の精査や、まちの景色・ひとの活動の実地での観察を促し、言葉と形による表現方法を議論することで、学生の主体的な探求心を引き出します。

[教育実践]

### 1) 建築史関連

- ・ 建築・インテリアデザインの基礎教養として、授業の目的と到達目標を次のように設定します。
  - ①「住まいの歴史」：明治期から現代までの日本の住まいの変遷を理解し、これからの住まいのあり方を考えることを目的とします。社会的背景と各時代の住宅様式、日本の住まいの歴史の変遷について説明できることを到達目標とします。
  - ②「東洋建築史・西洋建築史」：東洋・西洋における建築の歴史の変遷を、気候風土や社会的条件の違いによる技術・造形の多様な展開という視点から理解することを目的とします。各時代の建築様式の特徴、概念、発展過程、代表的な建築作品や建築家を、図版や文章で説明できることを到達目標とします。
- ・ 講義には教科書および配布プリント、スライドを用います。教科書は利便性や内容の充実度等を考慮し、建築史関連の全科目で共通利用可能な1冊を選定しています。配布プリントには、授業回のゴール、教科書範囲、トピックス、まとめ、参考文献・図版出典を記載し、「中廊下型住宅が武士住宅の伝統をどのように継承し、どのように異なるのか」など、学びのポイントの問い形式で提示（「住まいの歴史」）、または重要な箇所を穴埋め形式で構成（「東洋建築史・西洋建築史」）する工夫をしています。
- ・ スライドの配布は行わず、その代わりに学習者が主体的に資料を探せるよう、参考文献や図版出典を選定してプリントに記載しています。

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：山本 一貴 作成日：2026年1月31日

- ・ 毎授業回で修得度確認テスト（クイズ）を実施し、学習内容の定着を図っています。また、ミニツッパーパーにより授業での気づきや考えを言語化する機会を設け、内容に応じて授業内で紹介・回答しフィードバックしています。

- ・ レポート課題では定型様式を提示し、設問の細分化と分量の視覚化により、論理的な思考力の修得を支援しています。対象は阪神間や地元の住宅建築・様式建築など身近な事例とし、授業内容と結びつけながら学びを深められるよう工夫しています。

### 2) 設計演習・CAD 演習等

- ・ 設計製図演習では、与えられた用途や敷地等の条件に対して、他の授業で培った知識や技能を総合し、基本構想から計画・設計、図面・模型表現まで建築の「術（すべ）」を身につけることを目的とします。複数課題に取り組むことで、創造的な構想力と表現力、そして自らの考えを発信できる力を高めることを到達目標としています。

- ・ CAD 演習では、コンピュータのソフトウェアを用いた建築設計図を作成技術に加え、プレゼンテーションパネルとして表現技術までを総合的に習得することを目的としています。Jw\_cad などの CAD ソフトに加えて、Photoshop、Illustrator などのグラフィックデザインソフトも活用し、プレゼンテーション能力を養うことを到達目標としています。

- ・ 演習は 20 名以下程度の少人数クラスで実施し、個別のエスキースやフィールドワーク、成果物への指導や議論を、個人・小グループ・クラス全体など、規模を変えて柔軟におこなっています。

### 3) ゼミナール・卒業研究

- ・ ゼミナールでは、建築学、とくに建築史・意匠分野に関連して注目される複数の建築展に焦点を当て、出展作品の調査学習とプレゼンテーション、展覧会の観覧、観覧体験から自らの関心につながる問いを立てるワークなどを実施しています。こうした活動を通して、卒業研究（卒業制作）に向けた準備を段階的に進めています。

## 4. 教育の成果

1) 建築史関連：レポート課題、試験、毎回の修得度確認テスト（クイズ）、ミニツッパーパーなどのから、建築・インテリアデザインに関する教養・専門知識、情報活用力、論理的思考力の向上に一定の効果が見られます。授業アンケートにおける「授業の最初にクイズと最後にまとめて復習が深まった」や「レポートを通して興味ある住宅を調査し、自分の街への理解を深まった」などの声は、講義や課題が学修の内省と教室外の探求を促し、深い学びにつながったことを示しています。

2) 設計演習、CAD 演習等：成果物から、知識・技能の修得、創造的な構想力と表現力の向上が確認できます。特に CAD 演習は、授業アンケートで有用な知識や技能の修得実感が高く評価されています。

## 5. 改善への努力と今後の目標

必要とされる知識・実践力・信念と志を身につけ、学生が主体的に学びを深められるよう、今後も講義ならびに演習にアクティブラーニングを取り入れ、ICT の積極的活用とともに教育方法の開発と実践に努めます。

具体例として、プリントを当日配布ではなく前週配布へと早め、学習者の事前学習を促すことを検討しています。これにより、授業では学生同士や学生と教員の活発な議論・対話の時間をより多く確保し、内省や事後学習の充実につなげていきます。

## 【添付資料】

シラバス、授業アンケート